



夏と言えば...

「急患」のシーズンです。  

「ええっ！季節物なのですか？」と

思いつかもしれませんが、実は歯科には

二大急患シーズンがあるのです。

虫歯による急患は、一年を通して変化

はありませんが、歯周病は体調を崩す

時期に急性症状を引き起こします。

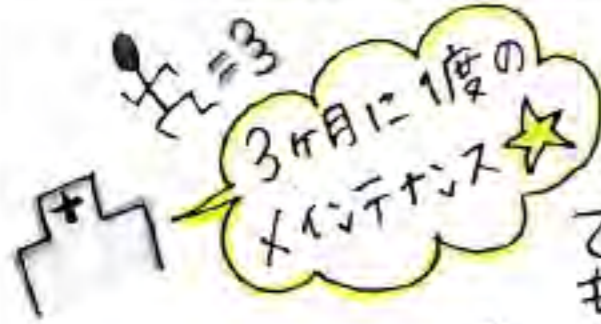
つまり、夏の暑い時と冬の寒い時です。

でも、若松は約6割の患者さんが、

メインテナンスを受診されて

いますので、急患の比率は

少ないと思います。



比率は少ないのですが、利用していた
だいている患者さんの数が多いので、
急患数は、まだまだ多く、待ち時間の
延長等でご迷惑をおかけしております。
今後は「急患ゼロ」を目指して頑張
りたいと思います。

そのためには、歯科衛生士のサポー
トが必要になるのですが、今回のデ
タルタイムでは、歯科衛生士1年生に
スポットを当てて見ました。

歯科助手を数年間務めてから衛生士
になった「なっちゃん」は、ちよつと
違った視点から患者さんに接している
ようです。

今後、どんな衛生士に
成長するのか...と、

ちよつと楽しみます。



ハイジーン・ロード

「社会人をやっているけど、衛生士に
なりたいたかも」と、思っている方が
いらつしゃつたら、彼女に相談してみ
るのも良いかもしれませんね。

(文：小島 代筆：東雲)

みはさん、こんにちは。

今回は、私「なっちゃん」

こと東雲那津子が、編集長を

務めさせて頂きました。

テーマは「**歯科衛生士への道**」です。

最近脚光を浴びだした歯科衛生士への

道のりをお伝えしたいと思います。

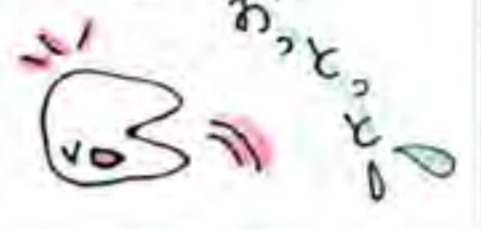
私...年齢は秘密ですが、歯科衛生士

(ハイジーン)の1年生なんです。





二十一年で卒業するのが、
 一般的ですが、私はちよつと
 寄り道をしていたもので・・・
 実は、私が初めて若松に来た理由は、
 勤務のためではありませんでした。
 都内の某歯科医院に勤務していた私は、
 取ずかしながら、いつも歯の痛みに悩ま
 されていました。ハム
 勤務先で治療を受けは、おりましたが、
 院長を始め複数のドクターから、抜歯
 を宣告されていたのです。
 「なんとかならんかい！」
 と思い、歯医者探しの旅に
 出たのでした。
 そして、行き着いた先が、
 若松だったのでした。
 痛みを顔をしめながら、



「随分待たせるなあ」と思い、
 やつと入室することになった。
 それは、私が勤務していた医院とは
 違い、ドクターの情熱とスタッフのホス
 ピタリティーが溢れていました。
 ここなら何とかなるかと思い、ワフを
 もすがる気持ちで通院を始めました。
 しばらくすると、あまりめかけていた
 歯に希望の光が・・・
 先生もスタッフも、一緒になって喜ん
 でくれる医院にビックリしていると、
 何と求人広告が出ているでは
 ありませんか。
 当時、病床の母の介護に
 明け暮れていた私は、
 非常勤での勤務を希望し、
 新しいスタートを切ったのでした。



若松に勤めてみると、
 更にビックリ・・・
 今まで、数軒の歯科医院
 を見てきましたが、まず
 消毒、殺菌システムの
 徹底に驚きました。
 そして、『予防』への取り組みです。
 「ここで、自分の知識を深め、患者様へ
 正しく伝えていくことが出来たら・・・」
 「女性の私が、社会的に何が出来るか」
 「ろうか？」「将来は？」「生きがいはいかに
 自分の人生はこのままで良いのかと、
 考える日々が続きました。
 そんな折、小島先生から「衛生士に
 なれば、と声を掛けていただき、
 日遅咲きながら一花咲かせよう」と
 決めたのでした。



卒業旅行「ニコグアム」♡

こんにちは。昨年十月から「大塚」

改め「後藤直子」となりました。

今後、よろしくおねがいします。

そして、なっちゃんは、衛生士専門学校、


私は独身生活の「卒業旅行」に美和子

を誘ってグアムに行ってきた。


しばらく若松を留守にするにあたり

院長からろつつの指令が出されました。

①必ず無事、生還せよ、

②国際結婚は、ゆるまん(笑)

③グアムの歯科事情を

何でもいから調べて来い、

しかし、4日間の滞在中にグアムで

見つけた歯科医院は、おすかにイ軒。

院長の指令を忠実に守るべく、必死で

探したにもかかわらず、どこにも歯科
医院が見当たらないのです。

帰国後、申し訳なそうに先生に報

告すると、先生は、「ニコニユしながら

「そうなんだよねー」と一言。


ホカソとしてゐる私に「見つからなか


つた理由を考えてごらん。」と先生。

「えらつと、必要が無いから。」と私。

「なぜ必要が無いの？」と先生。

「歯に痛みが無いから……」

「他には、どうかない？」

「逆に悪い人がいない？」

すると先生は、「両方とも正解に

と言って、海外の歯科事情について教

えてくれました。

治療費が高い外国では、二極化が起

つているとのこと。

つまり、徹底的に予防する人と、まるで

無関心な集団に分かれるそうです。

予防を頑張っている人は、悪くならな

いので、治療の必要がありません。

一方、無関心な人は、抜歯のみの治療

となり、歯医者は必要なくなるのです。

また、島民は、どこに何があるのか

把握しているため、客引きを必要とし

ない歯科医院は、看板がないのです。

「街の美観も損ねるしネ」と

小島先生は、再びニコニコ。

なるほど……

だから「若松の看板も

小さくて良いのか」と納得する私。

今度は、ダーリンとグアムに行こう

つとー、

（文）後藤 代筆（東雲）



ホッ♡♡



入学すると、医院勤務経験者や主婦が三割以上在籍しており、ギャルにまぎれての学生生活を心配していた私は少し安心したのでした。

でも、同じ目標を持って集まっている人達ですから、すぐに打ち解け、気が付いてみると十八から五十才までが、和気あいあいと過ごすようになりました。そして何よりも、この年で医学割をしい映画が観れることに気が付いたのでした。

千ワット売り場で「学生で」と言うのと、当然、ガラス越しに不思議そうな顔をされます。勝ち誇った顔をしながら、すかさず学生証を提示し



優越感にひたるのでした。↑↑

（うらむ、たまらん…）そんなことをして喜んでいるのもつかの間、あという間に二年生になり臨床実習が始まりました。

二つの歯科医院で臨床実習を受けてみると…

若松では当たり前前のように行われていることが、出来ていなかったり、院長の熱意がスタッフに伝わらずホスピタリティーのかけらも無かったり…コヤッポリ若松が一番」と実感する五月が過ぎていきました。

そして、国家試験対策が始まり、緊張が日を追うごとに増してきました。やがて季節は秋から冬へと向かい、クリスマスが近づくと街の中は

カポルで溢れ、受験生である私に

サータは現れず、机に向かう日々が続きました。お正月もちろん正月のおとろ気もどい吹く風。バレンタインは、唯一院長先生へ義理チョコを渡し、ひな祭りもなく頑張ったかいあって、

見事に国家試験をクリアしました。そして卒業旅行でグアムへ行き

二年間の疲れを癒し沈む夕日に向かい 歯科衛生士として医療に貢献することを誓うのでした。

私の次の目標は… お嫁さんになること！ だって、女の子ですもの！

（文リ東雲）



クリスマス